

令和7年度 インターネット上の偽・誤情報等への対策技術の開発・実証事業

偽・誤情報の判別に知識および認知的熟慮が及ぼす影響

成果報告書 簡易版

2026/3/19

研02_中央大学

偽・誤情報の判別に知識および認知的熟慮が及ぼす影響

- アプローチする課題・目指す姿
- 政治に関する偽・誤情報は、政局を混乱させ、民主主義への信頼を損なわせるという深刻な問題を引き起こす。
 - 偽情報に惑わされてしまう反応の一部は、確証バイアスや認知的流暢性などの認知バイアスによって説明できる。
 - 本研究では、①ウェブ調査により偽情報への接触状況および接触に関連する要因を検討すると同時に、②サーベイ実験で認知的反射テストを熟慮の操作として用いることで、「熟慮」が偽情報の正誤判断に及ぼす影響について検討を行う。

研究・調査区分	偽・誤情報対策技術に係る研究	実施体制 (下線：研究・調査主体)	中央大学
---------	----------------	----------------------	------

研究および有効性等に関する検証の取組・成果

本研究では、ウェブ調査及び（ウェブモニタ調査形式を用いた）サーベイ実験によって、以下の知見を得た。

【ウェブ調査】

- ① 若く、ネットを情報源としている人ほど偽・誤情報に接しやすい。一方、テレビニュース接触は偽・誤情報判断に正の相関を示しており、注意喚起の効果もあったと推測される。
- ② 社会への不安や政治的疎外意識が高い人ほど偽・誤情報に接しやすく、また信じやすい。
- ③ 批判的思考態度や「情報裏どり傾向」は、偽・誤情報への接触に正の効果を示していた。とくに批判的思考態度は、偽・誤情報の受容（本当かもしれないと思うこと）にも正の効果を持っていた。情報を深く処理することで、見たことを記憶しているということかもしれないが、「いろいろな考え方を知ろう」「裏付けを探そう」という努力が、場合によっては偽・誤情報への接触を促進してしまう可能性もある。

【サーベイ実験 1 および 2】

- ① 認知反射テストの正解率は各問 2～4 割程度と低い水準であった。このことは、とくにネット上では「熟慮せずに反射的に反応する」ユーザが多いことを示唆している。
- ② 認知反射テストへの取り組みとフィードバックを受けたグループは、「認知反射テストに取り組んだがフィードバックがない」「認知反射テストを受けていない」グループに比べて、「見たことがある、と判断する事実ニュースの数」が有意に多かった。ただし全体的に平均値は小さく、偽情報の判断には効果がなかった。
- ③ 「偽・誤情報を正しく判定した数」認知反射テストとFBを受けた回答者では、政治知識が多いほど「事実ではないと疑う偽・誤情報」の数が多くなっていた。以上の結果は、「考える作業」が、一定の条件で、情報の正誤判断を促進する可能性を示唆している。

研究・調査にあたっての課題・展望

- 本研究の知見として、特に重要なものは以下の 4 点である。
- ① 社会への不安や政治的疎外意識が高い人ほど偽・誤情報に接しやすく、また信じやすい。
- ② 批判的思考態度の強い、また情報の裏どりを重視する人ほど、偽・誤情報への接触が多い。（ただし、「見たことを記憶している」ことを意味している可能性もある。）
- ③ 認知反射テストの正解率は各問 2～4 割程度と低い水準で、ネット上では「熟慮せずに反射的に反応する」ユーザが多いことを示唆している。認知反射テストの正解数が多いほど提示情報を疑う傾向にあった。
- ④ 認知反射テストへの取り組みとフィードバックを受けたグループは、「認知反射テストに取り組んだがフィードバックがない」「認知反射テストを受けていない」グループに比べて、「見たことがある、と判断する事実ニュースの数」が有意に多かった。
- 以上の結果から、一般の有権者・ネットユーザが、「考える」面倒さを省きがちなこと、必ずしも事実への動機づけが高くないことを踏まえた情報発信が必要と考えられる。

代表者コメント



中央大学文学部教授
安野智子

本研究では、認知反射テストへの取り組みが「熟慮」を促すかどうか、またそれが偽・誤情報の判断を促進するかどうかについて検討しました。結果としては「事実判断」への効果、および、偽情報判断については微妙な交互作用がみられたのみでしたが、「考える作業」が一定の条件で正誤判断を促進するということが示唆されたと考えています。